

玄海町の 取り組み Initiatives

全国から生徒を迎えて
町の魅力を再認識!

佐賀県立唐津青翔高校の 「地域みらい留学」って?

海も山も人も、大切な教材。 玄海町の暮らしは丸ごと学び

玄海町では地域・学校・役場がチームとなって地域づくり、人づくりを協働する「コンソーシアム」を展開しています。唐津青翔高校が参画する「地域みらい留学」も、コンソーシアムのプロジェクトのひとつです。

「地域みらい留学」は生徒たちが都道府県の枠を超え、日本各地の魅力ある公立高校に進学できる仕組みで、唐津青翔高校でも全国からの入学生を募集しています。

その地域でしかできない教育って何だろう?と考えたとき、玄海町の場合、山も海も人も、全部が教材。町での暮らしが丸ごと学びになります。また、従来から唐津青翔高校は総合学科として、5つの系列があり、なかでも韓国文化について学ぶ「韓国文化系列」では、韓国語や文化の学習のほかに専門知識をもつ学芸員の方が生徒に直接教えたりと、博学連携というところでは、一等地。大きな可能性があり、私自身、当初から絶対的な自信を持って高校と地域の活動をPRしています。

新たな視点にハッとすると 留学生は気づきを与える存在

留学生の募集は、全国の参画校が集まって開催される合同説明会やオンライン

説明会を通じておこなっています。SNSでの発信にも力を入れているのですが、特にInstagramでの反響が大きいですね。ショート動画の撮影では「手を伸ばしたら届きそうな距離感」を意識しているのですが、「入学したら、自分もここにいたいんだ」という疑似体験感を持ってもらえるようで、30万回再生に到達するほど拡散された動画もあり、DMでの問い合わせも多く寄せられています。

令和6年度には、初の留学生である住吉さんを玄海町に迎えることができました。前向きな気持ちで玄海町に来てくれた彼女に、周りも大きなパワーをもらっています。ときどき、地元の子は慣れないようななんでもない景色を写真に収めたりするんですが、その写真がまたとても素敵だったりして、「当たり前が当たり前じゃないんだ」という気づきを与える存在ですね。

全国からも、地元からも 生徒が集まる未来に期待

現在も留学生の募集活動をおこなっていますが、東京での合同説明会ではブースに行列ができるほどの人気ぶりです。担当者として大きな手応えを感じています。玄海町では留学生が下宿する際に月3万円を補助する手厚い支援がいただけていることもあり、注目度がとても高いです。

玄海町唯一の高校・佐賀県立唐津青翔高校では、令和5年度より「地域みらい留学」に参画中。

令和6年度には第一号となる留学生を迎え、地域に新しい風を吹かせています。



地域みらい留学の
お問い合わせはこちら



佐賀県立唐津青翔高校
地域みらい留学生
住吉 海珀さん

玄海町の一番の魅力は「人」。
日々、地域の温かさを感じます

私の留学のきっかけは「韓国」。韓国人の友人との交流を通して韓国文化や韓国語に興味を持っていたところ、母が「地域みらい留学制度」について調べて教えてくれて、唐



一泊二日の観光だけでは わからない町のよさを伝えたい

私自身、玄海町の素敵な地域性に惹かれて外からやってきた人間です。だからこの町のよさをもっと広めたいという思いがあり、一般家庭で修学旅行生を受け入れる「民泊」に参加してきました。この民泊はいい経験になった一方で、「玄海町の魅力は、短い時間ではとても伝えきれない」と認識する機会にもなりました。一泊二日だけだと「いい景色だった」で終わってしまう。住まないといわれないことってあるよね……と残念がっていたとき、「留学生の下宿先を探している」と聞き、これだ!と手を挙げ、とんとん拍子で住吉さんの受け入れが決まりました。

古民家での生活や交通面での、不便も多いので大丈夫かな?

津青翔高校総合学科の「韓国文化系列」というコースの存在を知りました。自宅のある埼玉県からの距離を考えるとかなり悩みましたが、背中を押してくれたのは、高校魅力化コーディネーター・北川さんの「青翔高校では留学生の取り組みが始まったばかりで実績がないけれど、海珀ちゃんが玄海町に来てくれたら、0が1になる。それってとっても大きなこと」という言葉。だったら、挑戦してみたい!と、留学を決めました。

玄海町に住んでもうすぐ1年になります。住んでみて感動したのは、やっぱり食べもののおいしさですね。なかでも刺身が大好きです。それからイチゴ。こちらに来てはじめて、新鮮なイチゴの強い香りと甘さを知りました。

唐津青翔高校は1学年60名弱と規模が小さなこともあり、先生が生徒一人ひとりに向き合ってくれる時間が長いので、充実した

時間を過ごしています。期待通り、韓国についての授業が面白い。先生は日本人ですが、ソウルに6年、プサンに3年と現地経験が長い方で、授業ではよく「韓国あるある」が繰り広げられます。韓国語の学習は簡単ではありませんが、1年生は「あいいうえお」のレベルから数えてもらえるので安心ですよ。

学校の外でも、多くの学びがあります。山があって、海の香りがするという自然の豊かさもちろん大好きですが、一番いいなと思うのは「人」。普通にスーパーに行くだけでも人の温かさで溢れているのが、玄海町のすごいところですね。地域の方々との出会いを通して、「世の中には本当にたくさんの仕事があるんだ」と改めて知ることができました。今は、いろんな体験を重ねながら、将来どんな道に進むかを考えているところです。



という心配もありましたが、本人は住居にも町にもスツとなじんでくれました。親元を離れての進学は大きな決断だったと思いますが、実際に行動に移してみれば、大人が思うほど過酷だとか難しいということはないかなと感じています。

どの家にどの年齢の子がいるかをお互いによく把握している地域なので、住吉さんの存在は周りの方々にすぐに気づいてもらえました。「みーちゃんに」と野菜やくだものをポンと置いていくくださることもしょっちゅうです。刺身が好物だと知れ渡ってからは、刺身の差し入れが増えました(笑)。

こうした「地方の温かさ」って、そこで暮らしてみないとわからないもの。それに、野菜でもなんでも、モノの価値って、作っている人を直接知ることで上がりますよね。育てている農家さんの顔を知っ

ているとそれだけイチゴをおいしく食べられる、というように。

だから、住吉さんには、漁業も農業も畜産業も全部あるこの町で、たくさんの人に出会ってほしいですね。そうしてこの先、「地域みんなで育てるよ、支えているよ」という玄海町の温かさを、折にふれて思い返してくれるとうれしいなと思います。



橋高 ちひろさん